保護者対象説明会資料

Ⅰ　参考統合シミュレーション等について

1　現在地元代表協議会で協議されている主な小学校の組み合わせは何ですか。

（１）磁辺地区の各小学校の児童数の推移（推計）

20年度の太字は、加配活用での開級　　学級増の可能性あり

			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
磁辺第一小	児童数	1年	77	51	54	49	45	51	31
		2年	61	77	51	54	49	45	51
		3年	69	61	77	51	54	49	45
		4年	58	69	61	77	51	54	49
		5年	73	58	69	61	77	51	54
		6年	79	73	58	69	61	77	51
		計	417	389	370	361	337	327	281
	学級数	1年	3	2	2	2	2	2	1
		2年	2	3	2	2	2	2	2
		3年	2	2	2	2	2	2	2
		4年	2	2	2	2	2	2	2
		5年	2	2	2	2	2	2	2
		6年	**3**	2	2	2	2	2	2
		計	**14**	**13**	**12**	**12**	**12**	**12**	**11**
磁辺第二小	児童数	1年	18	30	31	26	27	32	29
		2年	41	18	30	31	26	27	32
		3年	25	41	18	30	31	26	27
		4年	15	25	41	18	30	31	26
		5年	21	15	25	41	18	30	31
		6年	15	21	15	25	41	18	30
		計	135	150	160	171	173	164	175
	学級数	1年	1	1	1	1	1	1	1
		2年	2	1	1	1	1	1	1
		3年	1	2	1	1	1	1	1
		4年	1	1	2	1	1	1	1
		5年	1	1	1	2	1	1	1
		6年	1	1	1	1	2	1	1
		計	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**	**6**	**6**
磁辺第三小	児童数	1年	68	52	65	63	39	51	50
		2年	79	68	56	65	63	39	51
		3年	74	79	71	56	65	63	39
		4年	85	74	82	71	56	65	63
		5年	79	85	77	82	71	56	65
		6年	76	79	87	77	82	71	56
		計	461	437	438	414	376	345	324
	学級数	1年	2	2	2	2	2	2	2
		2年	3	2	2	2	2	2	2
		3年	2	2	2	2	2	2	1
		4年	3	2	3	2	2	2	2
		5年	**3**	3	2	3	2	2	2
		6年	2	2	3	2	3	2	2
		計	**15**	**13**	**14**	**13**	**13**	**12**	**11**
磁辺第四小	児童数	1年	21	24	32	31	23	17	20
		2年	38	21	24	32	31	23	17
		3年	28	38	21	24	32	31	23
		4年	30	28	38	21	24	32	31
		5年	34	30	28	38	21	24	32
		6年	29	34	30	28	38	21	24
		計	180	175	173	174	169	148	147
	学級数	1年	1	1	1	1	1	1	1
		2年	2	1	1	1	1	1	1
		3年	1	1	1	1	1	1	1
		4年	1	1	1	1	1	1	1
		5年	1	1	1	1	1	1	1
		6年	1	1	1	1	1	1	1
		計	**7**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**
高浜第二小	児童数	1年	20	15	21	23	29	12	25
		2年	17	25	15	21	23	29	12
		3年	15	21	25	15	21	23	29
		4年	19	19	21	25	15	21	23
		5年	12	22	19	21	25	15	21
		6年	21	15	22	19	21	25	15
		計	104	117	123	124	134	125	125
	学級数	1年	1	1	1	1	1	1	1
		2年	1	1	1	1	1	1	1
		3年	1	1	1	1	1	1	1
		4年	1	1	1	1	1	1	1
		5年	1	1	1	1	1	1	1
		6年	1	1	1	1	1	1	1
		計	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**	**6**

（２）協議会で示された磯辺地区の小学校の統合シミュレーション（平成２６年度推計）

★参考統合シミュレーション１

【磯辺第一小・磯辺第三小、磯辺第二小・磯辺第四小の統合】

ア　現行の磯辺地区の小学校区の中での統合
①磯辺第一小＋磯辺第三小
６０５人１８学級
②磯辺第二小＋磯辺第四小
３２２人１２学級

イ　高浜第二小（高浜三丁目・六丁目）を加えた場合
磯辺第一小＋磯辺第三小＋高浜第二小
７３０人２１学級

ウ　高浜六丁目のみを加えた場合
磯辺第一小＋磯辺第三小＋高浜６丁目の児童
６２１人１９学級

◎協議会で出された意見
○統合校同士の規模にアンバランスがある。
○磯辺第二小と磯辺第四小の統合は、せっかく統合してもいずれまた小規模校になってしまう恐れがある。（第１次の取り組みでも指摘された。）

★参考統合シミュレーション２

【磯辺第一小・磯辺第二小、磯辺第三小・磯辺第四小の統合】

ア　現行の磯辺地区の小学校区の中での統合
①磯辺第一小＋磯辺第二小
４５６人１５学級
②磯辺第三小＋磯辺第四小
４７１人１４学級

イ　高浜第二小（高浜三丁目・六丁目）を加えた場合
磯辺第三小＋磯辺第四小＋高浜第二小
５９６人１８学級

ウ　高浜六丁目のみを加えた場合
磯辺第三小＋磯辺第四小＋高浜６丁目の児童
４８７人１５学級

◎協議会で出された意見
○統合校同士の規模にバランスはあるが、通学距離のバランスは悪くなる。

★参考統合シミュレーション３

【磯辺第一中学校区「磯辺第一小の一部・磯辺第二小・磯辺第四小」、
磯辺第二中学校区「磯辺第一小の一部・磯辺第三小」の統合】

ア　現行の磯辺地区の小学校区の中での統合

		児童の状況			教員配置			
		児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
磯辺第一中学校区 磯辺第一小の一部 ＋ 磯辺第二小 ＋ 磯辺第四小	1年	69	2	35	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(15) 特別支援担当 (病院内学級1) 専科担当(1)	少人数加配教員 (2･3年)	
	2年	73	2	37				
	3年	78	2	39				
	4年	82	3	27				
	5年	96	3	32				
	6年	88	3	29				
	計	**486**	**15**	**平均32名**	**3名**	**18名**	**2名**	**0名**
磯辺第二中学校区 磯辺第一小の一部 ＋ 磯辺第三小	1年	61	2	31	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(15) 専科担当(1)		
	2年	78	3	26				
	3年	56	2	28				
	4年	87	3	29				
	5年	86	3	29				
	6年	73	2	37				
	計	**441**	**15**	**平均29名**	**3名**	**17名**	**0名**	**0名**

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・クラス替えができ、より社会性を育むことが期待できる。
・学年ごとに、教員同士の研修ができる。

音楽など専門的な知識を持つ教員の指導を受けられる。

教員の校務分掌の負担が減る。

２・３年生は、それぞれ、少人数指導を展開するか、３クラスに分けることができる。

イ　高浜第二小（高浜三丁目・六丁目）を加えた場合
５６６人１８学級

ウ　高浜六丁目のみを加えた場合
４５７人１５学級

◎協議会で出された意見

○統合校同士の規模のバランスも通学距離のバランスも悪くない。

○子どもによっては、大通りを渡って通学しなければならない。

○磯辺第一小学校が二つに分断されてしまう。

★参考統合シミュレーション４【マリーナストリートで分けて統合】

ア　現行の磯辺地区の小学校区の中での統合

音楽など専門的な知識を持つ教員の指導を受けられる。

５年生は、少人数指導を展開するか、４クラスに分けることができる。

		児童の状況			教員配置			
		児童数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
磯辺第一小＋磯辺第二小＋磯辺第四小	1年	80	3	27	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(18) 特別支援担当(病院内学級1) 専科担当(1)	少人数加配教員(5年)	
	2年	100	3	33				
	3年	95	3	32				
	4年	106	3	35				
	5年	117	3	39				
	6年	105	3	35				
	計	603	18	平均34名	3名	21名	1名	0名
磯辺第三小	1年	50	2	25	校長 教頭 養護教諭	教務主任(1) 学級担任(11)	少人数加配教員(3年)	
	2年	51	2	26				
	3年	39	1	39				
	4年	63	2	32				
	5年	65	2	33				
	6年	56	2	28				
	計	324	11	平均29名	3名	12名	1名	0名

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・クラス替えができ、より社会性を育むことが期待できる。
・学年ごとに、教員同士の研修ができる。

教員の校務分掌の負担が減る。

３年生は、少人数指導を展開するか、２クラスに分けることができる。

イ　高浜第二小（高浜三丁目・六丁目）を加えた場合
４４９人１５学級

ウ　高浜六丁目のみを加えた場合
３４０人１２学級

◎協議会で出された意見

○磯辺第一小＋磯辺第二小＋磯辺第四小の統合校は、１８学級の最適規模になる。

○磯辺第三小は平成２６年度に加配活用で１２学級の適正規模である。（特別支援学級の設置はできないか。）

○磯辺第三小としては、大通りを渡る必要がなくなるので、この案を支持する保護者もいる。

○磯辺第一小脇の少年野球専用球場に、万一、大規模なマンション開発があった時には、発生する児童は磯辺第三小を単独で残しておくことにより収容できる。

（４）協議会でまとめられた今後の話し合いの方向性

小学校については、シミュレーション４の方向で話し合っていく。

◎委員から出されたこれを支持する意見

○可能性は少ないとしても万一のことは考慮してシミュレーション４とするのがよい。

○磯辺第一小が二つに分断されることがない。

○磯辺地区の第１次の取り組みでは、磯辺第二小と磯辺第四小との統合が検討され、「両校を統合しても将来また小規模校になってしまわないように、磯辺第一小も含めて議論する必要がある。」「磯辺地区の中学校の学区が磯辺第一小を分断しているのは問題である。」「中学校も含め、磯辺地区全体で学校適正配置を検討する必要がある。」という結論に至り、それを踏まえて、現在第２次の取り組みをしており、この案は第１次の取り組みの経緯に沿ったものだ。

◎一部の保護者の代表者から出された懸念（この件に対する回答は後述）

○運動場の開発がはっきりするまで待つべきだ。

○子どもたちが大通りを渡る可能性がある。

○開発がなければ磯辺第三小が小規模校化するのではないか。

２　現在地元代表協議会で示されている主な中学校の組み合わせは何ですか。

※磯辺地区では、中学校の適正配置の方向性については、まだ具体的な協議は行われていません。このことは、中学校の適正配置は後回しにするという意味ではありません。単に話し合いの順序であり、仮に小中学校の適正配置の方向性がまとまれば、次は統合時期と統合場所の協議に移ることになります。

（１）磯辺地区の中学校の生徒数の推移（推計）

20年度の太字は、加配活用での開級　　学級増の可能性あり

			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
磯辺第一中	生徒数	1年	80	88	98	77	85	95	80
		2年	70	80	88	98	77	85	95
		3年	78	70	80	88	98	77	85
		計	228	238	266	263	260	257	260
	学級数	1年	3	3	3	3	3	3	3
		2年	2	2	3	3	2	3	3
		3年	2	2	2	3	3	2	3
		計	7	7	8	9	8	8	9
磯辺第二中	生徒数	1年	100	111	97	110	105	110	115
		2年	84	103	113	97	110	105	110
		3年	87	86	105	113	97	110	105
		計	271	300	315	320	312	325	330
	学級数	1年	3	3	3	3	3	3	4
		2年	3	3	3	3	3	3	3
		3年	3	3	3	3	3	3	3
		計	9	9	9	9	9	9	10

○磯辺第二中の生徒数には、高浜第二小学校区の生徒数も含まれている。

（２）協議会で示された磯辺地区の中学校の統合シミュレーション（平成２６年度推計）

★中学校の統合が行われず、小学校のシミュレーション４に伴い学区をマリーナストリートで分けた場合

		学級編制の状況			教員配置			
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
磯辺第一中	1年	110	3	37	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等		
	2年	114	3	38				
	3年	108	3	36				
	計	**332**	**9**	**平均37名**	**3名**	**15名**	**0名**	**0名**
磯辺第二中	1年	85	3	28	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等		
	2年	91	3	30				
	3年	82	3	27				
	計	**258**	**9**	**平均29名**	**3名**	**15名**	**0名**	**0名**

○学区変更時に兄（姉）が在籍している中学校へは弟（妹）も進学できます。

★参考統合シミュレーション１

現在の学区で磯辺第一中と磯辺第二中【高浜第二小学校区からの生徒を含む】を統合

		学級編制の状況			教員配置			
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
統合校	1年	195	6	33	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等		
	2年	205	6	34				
	3年	190	5	38				
	計	**590**	**17**	**平均35名**	**3名**	**25名**	**0名**	**0名**

・場面に応じて適切な規模の集団を組むことができる。
・学校行事が活性化する。

・教員が免許外の教科を担当することはない。
・ほとんどの教科で複数の教員が配置されるので、教員同士の研修ができる。
・ニーズに応じた部活動数を確保できる。
・教員の校務分掌の負担が減る。

★参考統合シミュレーション２

磯辺第一中と磯辺第二中の一部【高浜第二小学校区からの生徒を除く】を統合

仮に、現在の高浜第二小学校の学区（高浜６丁目・高浜３丁目）が、磯辺第二中学校区から、高浜中学校区へ変更した場合を想定

		学級編制の状況			教員配置			
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
統合校	1年	176	5	35	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等		
	2年	187	5	37				
	3年	176	5	35				
	計	539	15	平均36名	3名	22名	0名	0名

★参考統合シミュレーション３

磯辺第一中と磯辺第二中の一部【高浜３丁目からの生徒を除く】を統合

話し合いの枠組み（海浜松風通りより磯辺側）で、磯辺地区の中学校を統合した場合を想定

		学級編制の状況			教員配置			
		生徒数	学級数	1学級あたりの人数	千葉県の一般的な配置基準		特別な加配	
							県費	市費
統合校	1年	179	5	36	校長 教頭 養護教諭	教務主任 学級担任 副担任 生徒指導主事等		
	2年	189	5	38				
	3年	180	5	36				
	計	548	15	平均37名	3名	22名	0名	0名

≪参考≫磯辺地区の中学校の部活動の開設状況（平成２０年度）

		磯辺第一中			磯辺第二中		
	部活動名	開設	顧問数	部員数	開設	顧問数	部員数
①	野球	○	2	男２７	○	3	男３０
②	サッカー	○	2	男３０	○	3	男２７
③	ソフトテニス	○	5	男４０女２９	○	3	女２３
④	バレーボール	○	2	女２０	○	3	女２７
⑤	吹奏楽	○	2	女２７	○	3	男４女３２
⑥	美術	○	2	男１女１２	○	3	女１０
⑦	バスケットボール	×	×	×	○	3	男１９女１９
⑧	卓球	×	×	×	○	3	男３０
⑨	陸上	×	×	×	○	3	男２１女１３
⑩	ヨット	○	3	男１８	×	×	×

Ⅱ　磯辺三小の適正配置に関する意見交換会での主な意見（質問）・要望に対する回答

１　統合を考える際、単なる数合わせをしないで欲しい。品川区のような学校選択制という方法を、千葉市が取り入れるといった案はないか。

「学校適正配置実施方針」に示しているとおり、学校適正配置及び通学区域の設定に当たっては、地域及び学校の歴史、行政区分、地域コミュニティとの整合性、小・中学校の通学区域の整合性、幹線道路・河川等の地理的条件に配慮して検討します。したがって、単なる数合わせで統合を検討することはありません。

学校選択制については、平成 20 年 12 月 19 日に行われた中央教育審議会初等中等教育分科会小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会（第 10 回）の中で、保護者の学校教育への関心が高まり、子どもが自分の個性にあった学校で学ぶことができるようになるといったメリットがある一方、学校と地域の関係が希薄化し、通学距離が長くなることに伴う安全確保の問題が生じるといったデメリットもあるという観点から、各市町村の実情に応じて検討すべきものではないかとの考え方が、資料として提示されています。千葉市では、地域と学校とのつながりを重視し「地域の子どもは地域で育てる」という考えに基づき、自由学区による学校選択制は考えておりません。

２　磯辺一小を中学校校舎として使用するのはどうか。

小学校の敷地や施設設備と中学校の敷地や施設設備は法令により設置基準が定められており、仕様が異なるため、小学校を中学校の校舎として使用することは困難です。

３　この問題は千葉市の財政難から出ていると思う。千葉市の将来の予算を具体的に教えて欲しい。

学校適正配置はあくまで、子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の充実を目的として推進しています。

千葉市の来年度の予算はまだ編成しておりません。今年度の予算は、千葉市のホームページで見ることができます。

４　学校運営費のシミュレーションを出してほしい。例えば、大規模校、小規模校に分けて、どのような違いがあるのか示して欲しい。

基本的に、学校の規模によらず学校を維持していくためには同じだけの費用がかかるので、小規模な学校の場合は、児童１人当たりにかかる費用は多いと推測できます。（第５回幸町地区地元代表協議会の中で「千葉市内の小学校の児童１人当たりの教育予算の比較」が協議題となっており、ホームページに資料と議事要旨を掲載しています。）

５　小規模校のメリット・デメリットについて、現場教師からの意見聴取をして欲しい。

学校適正配置事業は、平成１９年１０月に策定した「千葉市学校適正配置実施方針」に基づいて推進していますが、この「実施方針」は学校現場の先生方のご意見も取り入れながら策定したものです。また、千葉市初の統合校である花島小学校が平成１８年４月に開校しましたが、その後、定期的に花島小学校の教職員から意見聴取を行い、本事業の推進に生かしています。メリット・デメリットについても現場の教員の意見等を参考に作成しています。

６　千葉市の人口推計の出し方に疑問を感じる。どのような規定を設けて出しているのか。また、小学校から中学校への進学も、受験する人数を加味しているのか。

児童生徒数の推計は、住民基本台帳の人数を基にして、入学率や周囲の開発状況を加味して算出しています。現在示している推計は、平成２０年５月現在の住民基本台帳を基に算出したもので、０歳児が小学校１年生になる６年後の平成２６年度までの推計となっています。なお、推計は、毎年最新のデータを基に更新しています。また、開発状況については、「千葉市宅地開発指導要綱」に基づき開発業者からの事前協議が教育委員会企画課に提出されたものについて、毎年の推計に加味しています。中学校でいえば、私立学校等に進学する子どもがいるため、学区内の小学校から本来入学するはずの人数より、実際に入学する人数が少なくなる場合等があり、そのような違いについて、毎年その割合を計算しています。推計は、この割合の過去４年間の平均を「入学率」としています。今回お示ししたシミュレーションや推計はすべて、この考え方に基づいて、算出したものです。

７　この問題は協議会の中で決まっていくが、多数決でなく議論をし尽くして欲しい。意見を決して流さず、持ち帰り討論して欲しい。

2 年を目処に話し合いを進めているようだが、その期限に流されないで欲しい。問題点をきちんとクリアにした上で進めて欲しい。

「協議会」で協議された内容や資料等は、委員がそれぞれの団体に持ち帰り、情報提供するとともに意見を吸い上げていただき、それをもとに次の協議会で議論していただくことになっています。

「実施方針」にも示しているとおり、本市の学校適正配置事業は合意形成を基本として進めています。2 年を目途に話し合いを行っていただくようお願いはしていますが、それよりも早く合意形成が行われる「協議会」もあれば、遅くなる「協議会」もあるものと考えます。いずれにしても、子どもたちの教育環境をいかにすべきかとの視点で真剣に議論をすることが大事であると考えています。

８　統合前の両校の教員をバランスよく配置して欲しい。

このことは「実施方針」にも示している基本的な考え方の一つです。

９　生徒数に関わらず、専科教員を配置して欲しい。

一般の教員は県の基準により配置されており、市が配置できる教員は非常勤の教員だけです。いわゆる「専科教員」も県の基準により小学校に配置されており、その基準は、13 学級以上（少人数加配教員を活用して開級した数を除く）となります。

１０　磯辺一小脇の開発による生徒数の急激な増加で、三小の空き教室がなくなるという事はないか。

磯辺第三小学校の保有教室数は 22 教室であり、磯辺第一小学校脇の野球場と磯辺第一小学校の敷地を合わせて大規模開発が行われた場合（磯辺第一小学校が跡地となった場合を想定）に発生する児童数を最大限に見積もり、その児童を磯辺第三小学校に受け入れた場合でも 20 学級と予想されます。

Ⅲ　その他

１　磯辺地区の主な企業庁の土地について

※千葉県企業庁は平成２４年度末に解散し、その後の資産管理は千葉県などへ移管される予定です。千葉市では市長部局の政策調整課が企業庁との窓口となっていますが、教育委員会も必要に応じて随時情報交換を行っています。

（１）磯辺地区少年野球専用球場［磯辺第一小学校脇］（磯辺５丁目５２－１）

ア　面積・用途　28,560 ㎡　第一種中高層住居専用地域

イ　現状　平成２２年度末まで、野球場として使用可能。その後企業庁へ返還予定

ウ　企業庁の意向　返還後は、地域の要望を聞きながら使い道を計画

エ　考えられる使い道

①住宅以外の用途で民間に売却（例：福祉施設、病院など）

②住宅開発

地域の要望を踏まえて、計画することになるので大規模開発になる可能性は低い。

・戸建て住宅

・低層マンション

・高層マンション

平成２３年度以降、地元と協議しながら検討することになるため、計画が確定するまでには時間がかかり、実施されるのはさらに先のことになると考えられます。

オ　学校適正配置との関連

①磯辺地区の学校の現状を考えると、各学校により良い教育環境をできるだけ早く整えてあげたいと考えます。

②住宅開発に関しては、大規模な高層マンションの開発がない限り、それほど多くの子どもが発生することは予測されず、その場合に発生した児童は**磯辺第一小学校**でも**磯辺第一小学校との統合校**でも**磯辺第三小学校**でも受け入れることができます。（どの学校に受け入れるかは、正式な開発計画が教育委員会に上がってきた時点で各小学校の規模を考慮に入れながら検討可能です。）

③大規模な高層マンションが建設される可能性は低いと考えますが、仮に地域の要望にもかかわらず大規模なマンション開発が行われたとして、発生する児童を最大に見積もっても、磯辺第三小学校を単独で残しておけば受け入れることができます。

（２）海浜市民運動広場（磯辺３丁目６９－３）16,601 ㎡

ア　面積・用途　16,601 ㎡　第１種低層住居専用地域

イ　現状　千葉市が取得の方向

ウ　今後の使い道　引き続き市民運動広場として使用

（３）磯辺第一中学校向かいの空き地（磯辺４丁目２２）7,000 ㎡

ア　面積・用途　7,000 ㎡　第１種低層住居専用地域

イ　企業庁の意向

使い道を計画するが、子どもルームの敷地（600 ㎡）については市が今後も使用

ウ　考えられる使い道

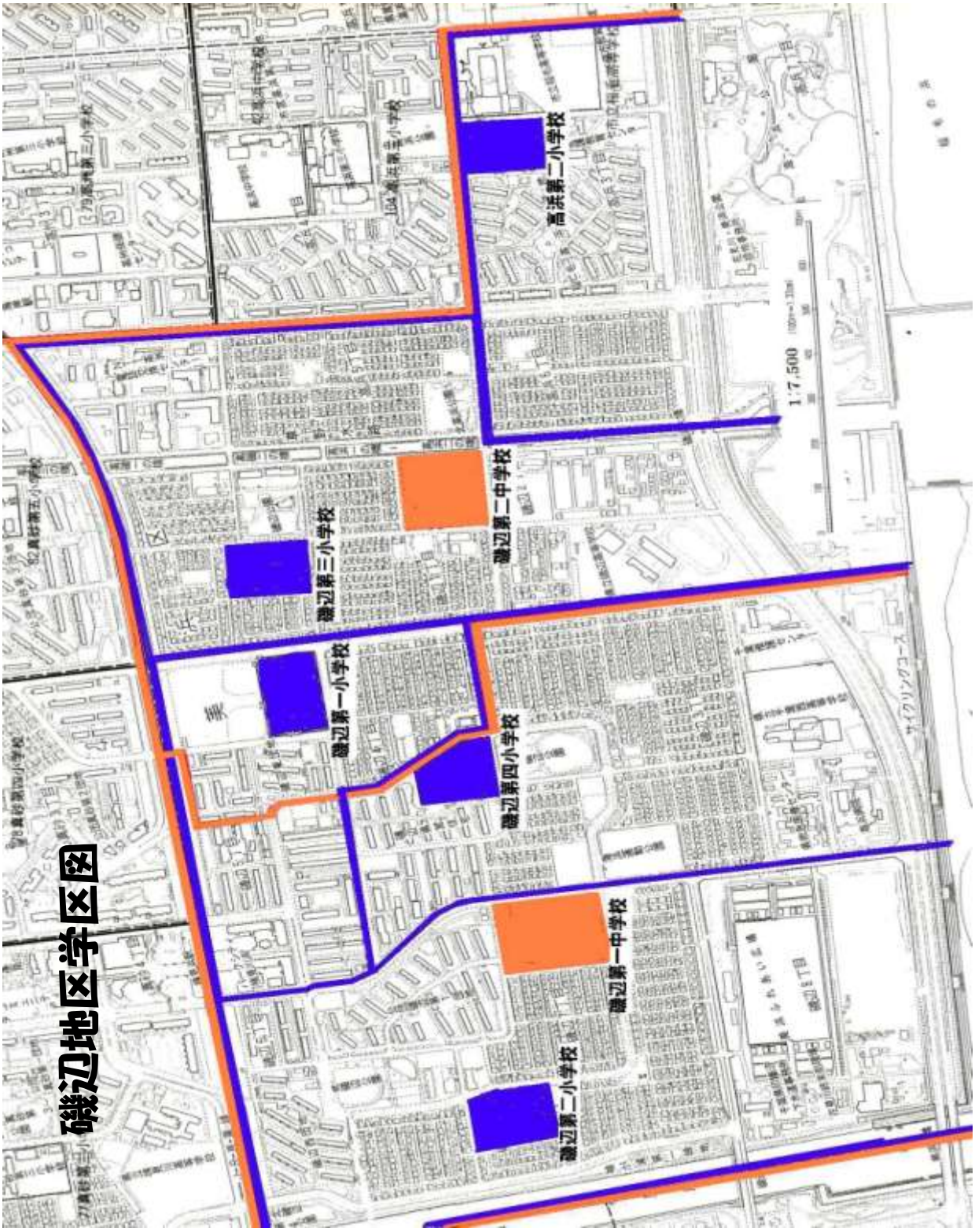
①戸建て住宅開発（大きな人口増の心配はありません。）

②住宅以外の用途で民間に売却（例：福祉施設、病院など）

２　磯辺一小・二小・四小が統合することによって、通学路距離はどうなりますか。

通学距離については、磯辺地区内であればどの小学校に統合校ができても、実測距離で遠くても 1.5 km程度です。

①磯辺第二小学校区の磯辺 7-37 から磯辺第四小学校まで 1.1 km、磯辺第一小学校まで 1.5 km

②磯辺第四小学校区の磯辺 3-18 から磯辺第二小学校まで 1.4 km、磯辺第四小学校区の磯辺 3-34 から磯辺第一小学校まで 1.2 km

③磯辺第一小学校区の磯辺 4-3 から磯辺第四小学校まで 400m、磯辺第二小学校まで 1.2 km